

平成25年度 燕市・西蒲原郡体育部 活動報告

部長 小林 恵子

1 研究主題

一人一人が意欲的に活動に取り組む体育指導の工夫

2 研究の概要と実際

(1) 第1回(6月5日)実技講習会「鉄棒を中心とした器械運動の指導法」

講師 渡辺 葵 様(加茂体操クラブ)

会場 分水小学校 体育館

<講習の主な内容>

準備運動からスモールステップを用い、鉄棒運動の逆上がりにつながる指導法を紹介していただいた。実際に分水小学校の6年生の子ども10名に教える形で行った。特に、腕支持感覚や逆さの感覚、そして、振り上げ脚と蹴り脚を意識して指導されていた。

今まで逆上がりができなかった子がこの講習会を受けて、初めてできたという嬉しい場面に出会えた。また、今回逆上がりはできなかったが、もう少しでできそうな子どもたちは意欲的に練習に挑戦していた。子どもに「できそうだ」という見通しを持たせることが意欲に繋がるということを再確認できた。



(2) 第2回(11月20日)授業研修 第6学年「マット運動」

授業者 杉山 豊和 教諭(燕市立分水小学校)

会場 分水小学校 体育館

<授業の概要>

4名でグループを作り、授業の前半は個人の技を高める、後半はグループで集団マットを行う、という構成であった。前半は、自分の課題や挑戦したい場に分かれて、意欲的にマット運動に取り組む子どもたちの姿が見られた。一人が技を披露した後、同じ場の他の子どもたちとハイタッチをするというかわりの手立てを講じていた。

後半は、グループごとに集団マットの構成を考えて練習していた。同じグループで声を掛け合ったり、リズム(1・2・3・4…)を一緒に唱えたりして、かわりながら取り組んでいた。また、タブレット端末を用い、グループごとの演技を録画したものを見せることで、自分たちの動きを振り返らせていた。

協議会では、子どもの姿を振り返りながら次のような点について、話し合った。

- ・子どもたちは友達とかわり合って、意欲的に運動に取り組んでいた。
- ・技の精度を高めるための教師の支援はどうあったらよいのか。
- ・集団マットのねらいを明確にすることが必要である。



3 成果と課題

2回の研修とも器械運動で行った。鉄棒、マットとも克服型の運動と言われ、技ができない子どもは楽しさを味わえないのではないかと考えがちである。しかし、子どもに技が「できそうだ」という見通しを持たせることや集団マットのように友達とかわり合って運動に取り組む楽しさを味わわせることが子どもたちの意欲に繋がることを学ぶことができた。

来年度は、子どもたちがさらに意欲的に運動に取り組むような授業改善ができる研修を設定していきたい。